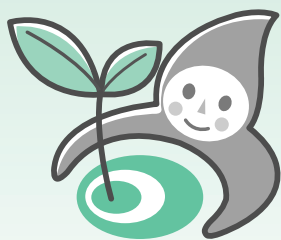


森づくりの大切さ全国に発信



北欧の杜公園◇1万2千人が参加し「第59回全国植樹祭」

「手をつなごう 森と水とわたしたち」をテーマとした第59回全国植樹祭が6月15日、天皇后両陛下をはじめ全国から約1万2千人が参加し、県立北欧の杜公園で開催されました。記念式典では、両陛下がブナやヤマモミジなどそれぞれ3種類の樹木の苗と種をお手植え・お手播きになられたほか、全国からの招待者は植樹会場で24種約1万2千本の苗木を植樹しました。

国土緑化運動の中心 の行事「全国植樹祭」

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、(社)国土緑化推進機構と都道府県が共催で開催する国民的イベント。国土緑化運動の中心的な全国行事として毎年春季に開催されています。

秋田県での開催は昭和43年に旧田沢湖町(現仙北市)で開かれて以来2回目。地球温暖化が世界的な問題となる中、全国からの招待者らが、大切な森と水を未来へつなげる願いを込めて24種約1万2千本の苗木を植えました。



▲ブナなど3種類の樹木の苗木をお手植えされた天皇陛下。介添え役の緑の少年団の団員もしっかりと役目を果たしました

植樹祭の参加者は招待者、出演者、運営にあたる実施本部員を含め約1万2千人。このうち、全国からの招待者は北秋田市民をはじめ約7700人。バスで訪れた招待者は、午前7時

典会場に入場、イベント広場では綴子獅子踊り、竿燈、なまはげ太鼓などの郷土芸能が伝統の妙技で入場者を歓迎しました。記念式典は天皇后両陛下をお迎

過ぎから会場内に設けられた植樹会場で、ブナやミズナラ、ミズキやヤマモミジなどの苗木を植樹しました。招待者は、植樹のあと、県と市職員

両陛下の介添え役を務めた「緑の少年団」

全国の緑化功労者などの表彰の後、両陛下によるお手植え・お手播きが行われ、お手植えでは「森」の字をか

たどり、天皇陛下がブナ、トチノキ、秋田スギの3本を、皇后陛下はカツラ、ミズキ、ヤマモミジ3本の苗を植樹、お手播きではこれらの樹木の種を播かれました。

お手植え、お手播き行事では、介添え役の緑の少年団の団員がしっかりと役目を務めるとともに、両陛下から「緑の少年団はどんな活動をしていますか

声かけにも「木を植えたり草を刈ったりしています」(竜森小4年・武田玲菜さん)と、はきはきと返事をしていました。



▲樹木の種をお手播きされる皇后陛下

続いて、寺田知事が、次期会場地となる福島県西川一誠知事に緑の地球を表した植樹祭のシンボルを手渡しました。

多くの市民が出演 式典アトラクション

代表者記念植樹、三世代記念植樹のあと行われた「秋田の森、川、海」豊かなめぐみの循環」をテーマとしたアトラクションでは、バレエスクールの踊り手、市内の小学生、前山

式典終了後のエピソードでも、綴子大太鼓など市内の郷土芸能が会場を盛り上げるとともに、イベント会場に出店した物産業者らは、自慢の特産品などを来場者に盛んにPRしていました。

また、午後からは県内からの参加者を中心に植樹が行われるなど、この一日をかけて行われた大イベントを通し、「県民総参加の森づくり」を北秋田市から全国に発信しました。



▲全国から招待された参加者は約7700人。広大な公園南側の広場も埋め尽くされました